

Topics1. 鳥獣被害対策マイスター認定者にはマイスターパーカーを差し上げます。(掲載イラストを募集中!)



Topics2. 県内9例目! アライグマが捕獲されました。



2023

4

Vo.43

鳥獣センター通信

発行元 鳥獣被害対策支援センター ☎0985-44-1816

Topics1

鳥獣被害対策支援センターでは、地域の鳥獣被害対策のコーディネーターとして活動する技術指導者を養成する研修を開催し、鳥獣被害対策マイスターとして認定しています。今年度は、下記の日程で実施しますので、鳥獣被害対策に携わる方はぜひご参加ください。(参加人数を分散させるため2回に分けて実施します。)

急募!!

マイスターパーカーのイラスト

これまで、新たにマイスター認定された方には、ジャンパーや本、手袋などをお渡ししていました。今回は、皆様からの要望を受け「パーカー」を作成し、オリジナルのイラストを載せたものをお配りします。



(正面)



(背面)

そのイラストについては、左記のとおり募集いたしますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。


1111

日程

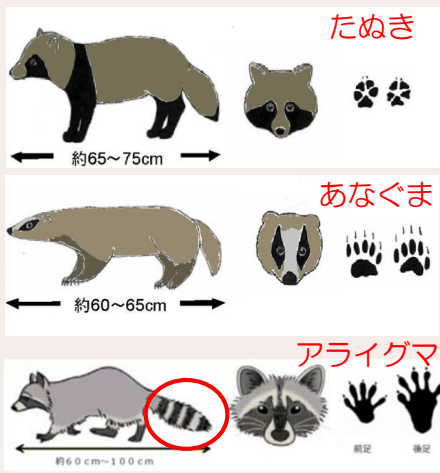
- 【研修Ⅰ・Ⅱ(2日間)】
 - ・令和5年5月25日~26日
 - ・令和5年5月30日~31日
- 【研修Ⅲ】
 - ・令和5年7月11日
 - ・令和5年7月12日

いずれか
いずれか

【募集要項】

- テーマ- 『鳥獣被害対策』
- 掲載イメージ-  鳥獣被害対策マイスター
- 締切- 『R5年5月26日』
- 形式- 『JPEGまたはPNG』 (パワーポイントでも可)
- 備考-
 - ・作成していただける方は、その旨をご一報ください。(提出先をお伝えします)
 - ・採用された方には、パーカーをプレゼントします。

【各中型獣との見分け方】



【アライグマの特徴】

体長：60cm~100cm
耳の縁とひげが白く、尾はしま模様

【アライグマ被害一覧】

—農業被害—

アライグマによる農業被害はここ数年で急増しており、特に甘みのある野菜や果実が狙われています。本県でも昨年、アライグマによるものと思われるスイカ被害が確認されました。



スイカ被害(県北地域)

—生態系被害—

アライグマは雑食性で食欲旺盛のため、在来種である希少な昆虫や爬虫類を捕食する事例が報告されています。



—生活被害—

アライグマは民家や寺社の屋根裏をねぐらにします。そうすると、糞尿による悪臭や天井が腐って抜け落ちることもあります。

令和5年3月27日、高千穂町向山で県内9例目となる『アライグマ』が捕獲されました。(1例目は平成27年9月)かわいらしいイメージを持たれやすいアライグマですが、実際には狂暴で、様々な被害を与える害獣であり、「特定外来生物」に指定されています。目撃・捕獲した場合は、支庁・振興局や市町村役場に連絡をお願いします。

令和5年度 鳥獣センター体制

新しいセンター長のもと、この4人ががんばっていきます。

今年4月に参りました須崎といいます。鳥獣被害対策は農作物の被害軽減はもちろんのこと、家畜の防疫においても非常に重要な取り組みです。

地域の皆さんと連携し対策を進めたいと思います。よろしくお願いいたします。センター長 須崎 哲也

3年目になりとうとう休日も猪や鹿を追いかけられることに。(趣味は狩猟です。)家ではもうすぐ2歳のウリ坊(娘)と日々格闘。今年も一生懸命頑張ります! 主任技師 室屋 敦紀



2年目になりました。気軽に「ゆうこりん」と呼んでいただけたら嬉しいです。今年度もどうぞよろしくお願いします。 農業革新支援専門員 弓削 有子

未だ動物たちの行動が読めない中、農家のための鳥獣被害対策に少しでも手助けができればと...頑張ります。 会計年度任用職員 益田 真由美

鳥獣被害対策について御相談したいことがありましたら、気軽に声をかけてください。

被害対策に関する問合せ

西臼杵支庁及び各農林振興局 各市町村・各農協・各森林組合 等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

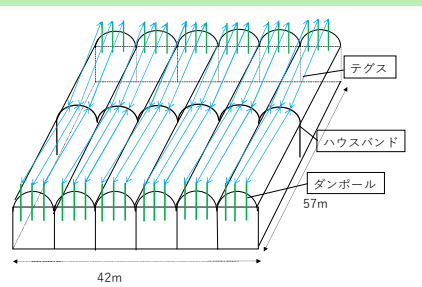
児湯地域

農業用ハウスのカラス対策実証
ほを設置

児湯地域では、イノシシ等の農作物被害のほかに、カラスによる農業用ハウスの被覆資材の破損などの被害も発生しています。今回、川南町内の農業用ハウスにテグス設置によるカラス対策の実証ほを設置しました。農業用ハウスのカラス対策は、天井部に支柱を取り付け、テグス等を設置する方法がとられています。天井部にビニペットがないと支柱が設置できないほか、ハウスの奥行きが長い場合（30m以上）には、テグス等が弛まないように中間支柱の設置が必要になるなど、設置の条件に様々な制約があります。そこで、設置の制約が少ない手法を独自に考案し、実証ほを設置しました。

- ・設置日…令和5年3月7日
- ・実証ハウス…7m間口6連棟 奥行き57m（2,396㎡）

今回のテグス設置では、ハウスの棟の中間部にハウスバンドを取りつけ、事前に一定の長さで切っておいたテグスをハウスバンドに結び、ハウスの手前と奥の妻面に向けて張りました。



②農業用ハウスのテグス設置のイメージ



①ハウス妻面の支柱およびテグスの取り付け状況
材料費は、2,396㎡で1万5千円程度。
▲の位置にテグスを結束。

また、テグスを結ぶ支柱として、ダンボールをハウス妻面のビニペットの針金に結束バンドで固定しました。今回の作業で、計36本のテグスを設置できました。作業時間は、10名で3時間半でしたが、慣れればさらに時間短縮が図れると思われます。この手法では、多くの農業用ハウスでテグスを設置することが可能となります。今後は、実証結果を基に、技術をブラッシュアップし、カラス対策の一つとして提案していく予定です。

南那珂地域

南那珂地区では、特命チーム活動として、鳥獣被害防止総合支援事業等の各種事業を活用して防護柵整備に取り組み生産者に対し、研修会開催や現地調査等を行い、生産者の理解醸成に努めています。

今回は、特命チーム活動事例として、集落全体で鳥獣被害防止に取り組み串間市市木地区について、ご紹介いたします

串間市市木地区は、水稲作付が中心で、数年前からイノシシによる水稲被害が増加、最近はサルによる被害も発生しています。電気柵を設置している水田もありますが、被害は年々増加しています。

そこで、集落全体で鳥獣被害対策に取り組むため、地域住民と特命チーム員で集落点検を行い、被害の現状と対策について検討しました。

集落点検を行うことで、対象地区は大小3つのエリアに分けられること、地図ではわからなかった放棄樹園地があること、水田と道路に大きな段差があり、防護柵設置が難しいこと等が確認できました。

集落点検実施後は、点検結果を地図上で共有し、対策を検討しました。地域住民の当初の要望は、補助事業を活用した防護

柵の整備でしたが、まずは、被害防止対策について、みんなで勉強し、取り組んでいくことになりました。

特命チームでは、市木地区を南那珂地区の重点現地支援対象地域に選定し、支援センターの指導を受けながら、研修会や現地実証等に引き続き取り組んでいく予定です。



室内検討の様子



現地での集落点検の様子